

## 〈都市の文明〉と〈里の文明〉

鍼灸師・漢方研究家 鈴木<sup>せいかん</sup>齊観

福島第一原発事故は未だに収束したわけではなく、放射能汚染は拡大している。そうした状況にも関わらず、未だに原発推進の考えを持つ人々がいるのはどうしてだろうか。今夏は多くの人たちの節電に対する意識が高く、「クールビズ」が本格的に取り入れられ、冷房の設定温度も実際に下げられている様子である。過剰冷房の為に、夏に寒さ対策をしなければいけなかったこれまでが余りにも異常だった。生活の仕方を変えれば、エネルギー消費は大きく減らすことができる。

ところが現代社会は暑さや寒さを避ける為に、自然と隔離したシェルターを作り、大量のエネルギーを使って、その内部を快適な空間にする方法を選んで来た。エアコンなどにより温度や湿度がちょうど良い様に制御された上に、鳥の鳴き声がスピーカーから流れ、花々の香りが機械によって振り撒かれて、自然が演出された。これが、今も災いをもたらしている原発を必要させてしまった現代の文明の象徴的なあり方である。

原発は、大量に放射性物質を撒き散らす今回の様な事故がなくとも、日常的に発電に伴って放射性廃棄物を産み出していて、その処理方法は確立されていない。つまり原発は命を育む母なる大地＝地球を蝕む存在である。そしてその産み出す大量の電気に支えられた文明は、現代都市に象徴される様な「自然を支配」する文明である。この文明においては、環境としての自然も、内なる自然である私たちのからだも、蝕まれざるを得ない。

私たちは自然の中に生まれ、自然に育まれ

て存在しているのであって、その命の原点から離れることはできない。「自然を支配」とするとは、その命の原点から離れることを意味する。現代の多くの文明病は元をただせば、そのことに起因する。

自然は私たちを育むだけでなく、時に脅威となる。それは今回の大地震・巨大津波が嫌と言う程、明らかにしたところである。こうした自然災害だけでなく、日常的に私たちは気候変化の影響を受け、病原微生物・毒物等にさらされて、時に私たちは病気になる。同じ自然現象でもその扱い方によって、人間にとって有害なものにも有益なものにもなる。私たちの祖先は自然の恵みをいかに享受するか、自然の脅威をいかに防ぐかに知恵を働かせて、文明を築いてきた。

その一つのあり方が〈都市の文明〉であり、季節・昼夜による自然の変化に無関係で影響されない生活を可能にした。もう一つは自然の変化に合わせた生活をし、自然に過剰に手を加えず、周囲の環境を里山・里海と

して育て、自然と一体となって生活する〈里の文明〉である。ひょっとしたら〈都市の文明〉は人類にとって必要悪かもしれないが、現代はそれが私たちの生存を脅かす程にまで拡大している。〈都市の文明〉を縮小し、〈里の文明〉を拡大しなければいけない。

有機農業をする農家、伝統的な製法での味噌・醤油・酒・酢を造る職人、化学合成品を添加しない加工食品の製造者、新建材でなく天然木で家を建てる大工、・・・そして人間の自己治癒力を活かし、極めて簡素な設備で治療する鍼灸師。そうした人たちは〈里の文明〉に属している。協同して〈里の文明〉を拡大していこう。(2011年6月芒種)

